

第5回
東大和市社会教育委員会議 会議録

令和6年9月24日（火）

令和6年度第5回東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 令和6年9月24日（火）午後2時～午後3時30分
- 2 場 所： 中央公民館 301学習室
- 3 出席委員： 池田陽子、外池武嗣、才郷正次、杉本誠一、森脇千春、
橋本智保子、半田道夫、鈴木進也（8人）
欠席委員： 和田孝（1人）
- 4 事務局： 岩野生涯学習課長、荻沢主事（2人）
- 5 内 容： 議題（1）研究テーマについて（研修）
議題（2）その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： 0人
- 8 配布資料： 研修資料 東大和市コミュニティスクールの方向性
研修資料 学校運営協議会について
資料 1 第66回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会の
当日の流れについて
社協情報のNo.91／教育委員会だより／公民館だより／プラ
ネタリウム秋番組のお知らせ／吉岡堅二展のお知らせ／第1
ブロック研修会開催要項

9 議事内容

(1) 研究テーマについて（研修）

東大和市教育委員会石田玲奈教育部参事（以下、「講師」という。）より、コミュニティスクールについて研修会を実施した。

・講師

研修資料 東大和市コミュニティスクールの方向性及び学校運営協議会についてを用いて研修会を実施した。

研修会后、以下のとおり質疑応答及び議論があった。

・委員

学校運営連絡協議会からコミュニティスクールに変えるにあたり、先生方の意識や、コミュニティスクールに対する気持ちの持ちようを高めていくためには、どのようなことをやっているのか。

・講師

校長先生のリーダーシップによるというところが大きいと思う。教育委員会としての課題としては、東大和市のコミュニティスクールに関する方針が浸透していないこと。東大和市の学校は、コミュニティスクールを推進しているということを学校も地域も感じられるように進めていかなければならない。

・委員

先生が自治会に顔を出すなど、学校側の方から地域に入るようなことはできないのか。

・委員

地域へ歩み寄っているかについては、学校によって差がある。

・委員

先生によっても人との関わり方は得意不得意がある。地域学校協働本部を作り、学校と地域の間に入ってくるコーディネーターを任命することが大事ではないか。

・委員

コーディネーターで問題なのが、任命される方が、複数の別組織を兼任していることがあるということ。そうならないように、新たな人材を発掘していくことが大きな課題である。

・委員

できたら、コーディネーターは掛け持ちではなく、仕事として専任で来てもらいたい。

・委員

現状、コーディネーターは無給であり、限界がある。

・委員

やってもらったことに対して対価がなければ依頼しづらい。

・委員

社会教育委員という立場を考えたときに、各学校にいるコーディネーターの会議というものを設置し、そこに事務局を置いて、先生が異動されても、長期的に継続して活動できるように提案する。そのような組織が作れるのか。

・委員

現在、コーディネーターが全校にないため、難しいと思われる。

・委員

学校運営協議会の開催頻度はどれくらいか。

・委員

学校によって異なるが、一番少なくて年に3回程度。月に1回やってる学校もある。

・委員

学校運営連絡協議会の横の繋がりはないのか。

・講師

昨年度については、新たに学校運営連絡協議会委員になられた方に対して研修会を実施した。今年度については、方法を検討している。

・委員

コミュニティスクールに対する経費費用、報酬を含めて、予算化の可能性はあるのか。

・事務局

来年度以降の予算に関しては、現状回答できない。

(2) その他

事務局から2点事務連絡を行った。

・事務局

第55回関東甲信越静社会教育研究大会茨城大会について、資料1を

用いて説明した。

ブロック研修会について、第1ブロック研修会開催要項を用いて説明した。

- ・ 副議長

本日の会議のまとめを行った。

- ・ 議長

第5回東大和市社会教育委員会議を終了する。次回は10月15日午前10時から中央図書館視聴覚室で開催である。